

## 受賞者紹介

### 第36回 生物工学賞 田谷 正仁 (大阪大学大学院基礎工学研究科・教授)

「構造体形成を伴う動植物細胞の培養と利用に関する生物工学研究」



＜略 歴＞ 1981年 名古屋大学大学院農学研究科修了，同年 名古屋大学工学部助手，1986年～1987年 スイス連邦工科大学客員研究員，1988年 大阪大学基礎工学部講師，1990年 助教授，1996年 教授，1997年 大学院基礎工学研究科教授，現在に至る。

＜業績紹介＞受賞者は，植物毛状根の増殖モデルに基づく速度論的解析により，毛状根の培養条件・培養操作の最適化を可能とし，毛状根を用いたバイオリクターや色素生産法の開発にも成功した。また，動物（ヒト）細胞に関しても，増殖モデルと画像解析手法を用いて培養細胞の質に関わる特性評価を可能とするとともに，オンラインによる閉鎖系培養システムや高分子ゲル材料を利用した3次元組織体生産法を開発した。動植物細胞を対象とした生物化学工学研究を一貫して行い，特に生物反応工学の新しい地平を拓いた。一方，関西支部長，

本部理事・監事，90周年記念大会実行副委員長など，多くの役職を務め，本学会に対して多大な貢献を果たしている。

＜受賞の感想＞この度は，生物工学賞を賜り身に余る光栄に存じます。これも偏にご指導いただいた先生方，異なるバックグラウンドからの視点を持ち込んでいただいた共同研究者や研究室のスタッフ，そして，昼夜を分かたず研究に没頭してくれた多くの学生諸君のお蔭と心から感謝します。今後も生物工学会の発展に少しでもお役に立ちたいと存じます。

### 第11回 生物工学功績賞 高木 博史 (奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科・教授)

「微生物におけるアミノ酸の代謝制御機構・生理機能の解析とその応用」



＜略 歴＞ 1982年 名古屋大学大学院農学研究科生化学制御専攻博士前期課程修了，同年 味の素株式会社入社，1988年 農学博士（東京大学），1995年 福井県立大学生物資源学部助教授，2001年 教授，2006年 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科教授，現在に至る。

＜業績紹介＞受賞者は，酵母，大腸菌，放線菌など多様な微生物を対象にして，生命の基幹物質であるアミノ酸の代謝制御機構と生理機能に着目した研究を基礎から応用へ幅広く展開している。たとえば，酵母におけるプロリン・アルギニン代謝を介した酸化ストレス耐性機構の製パン技術への応用や，ロイシン代謝研究に基づく高香味性泡盛の商品化など，学理の究明に留まらず，基礎研究での知見を独自性高く実用化研究へと展開している。産学連携の

推進による社会への貢献を常に意識した取り組みを含め，功績賞に相応しい多くの業績をあげている。本学会の英文・和文誌に25報以上の論文や総説を公表しており，理事（広報・学術担当）や関西支部長として本学会の運営にも貢献している。

＜受賞の感想＞栄誉ある生物工学功績賞を賜り，身に余る光栄です。微生物のアミノ酸研究の重要性和面白さを教えていただいた味の素（株）の皆様をはじめ，ご指導・ご協力いただいた研究室のスタッフ，学生さんに心よりお礼申し上げます。今後もお世話になった方々や微生物への感謝を忘れず，「今が故郷」の気持ちで，基礎・応用のバランスを意識したユニークな研究を目指します。

## 第50回 生物工学奨励賞（江田賞）

渡部 潤（ヤマサ醤油（株）醤油研究室・室長代理）

「醤油酵母における香気成分の生成機構に関する研究」



＜略 歴＞ 2004年 新潟大学自然科学研究科博士前期課程修了，同年ヤマサ醤油（株）入社，同年から2006年まで（独）酒類総合研究所共同研究員，2013年 主任，2017年より現職。2011年 農学博士（新潟大学）。

＜業績紹介＞ 香りは醤油の重要な特性の一つであり，その生成には醤油酵母が重要な役割を果たしている。もろみに発生する産膜酵母は不快臭を生成し醤油の品質を下げる。そのメカニズムに関して産膜形成の鍵遺伝子 *FLO11D* をクローニングし，この遺伝子を介して産膜形成，空気暴露が起こり，不快臭が生成することを明らかにした。さらに，醤油の特徴香成分 HEMF の生成には前駆体アセトアルデヒドの蓄積が関与すること示し，生化学的解析により詳細な生成メカニズムを明らかにした。これらの知見は，酵母がつくる醤油の香気生成メカニズムの解明，そして醤油醸造技術の進歩に大きな貢献をした。以上の成果は江田賞に値するものである。

＜受賞の感想＞ この度は栄えある江田賞を賜り，大変光栄です。ご指導いただきました先生，上司，そして同僚の皆様方に心から感謝申し上げます。今後も醤油酵母の研究を通して，本学会ならびに醸造業界の発展に貢献できるよう精進してまいりますので，ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 第53回 生物工学奨励賞（斎藤賞）

古賀 雄一（大阪大学大学院工学研究科・准教授）

「超好熱菌由来酵素の構造機能相関研究とその応用」



＜略 歴＞ 2001年 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了，同年 名古屋大学大学院生命農学研究科 博士研究員，2003年 シカゴ大学リサーチアソシエイト，2004年 大阪大学大学院工学研究科助手，2007年 同 助教を経て2011年より現職に至る。

＜業績紹介＞ 受賞者は，超好熱菌から単離したプロテアーゼを用いて酵素応用時に重要となる熱安定性に着目し，その構造と機能に関する基盤的かつきわめて重要な知見を明らかにした。また，受賞者は，これら耐熱性プロテアーゼの産業応用についても力を入れている。高温や変性剤に対して耐性を示す当該プロテアーゼを用いて，難分解性タンパク質であるプリオンタンパク質を効果的に分解できることを示している。本方法は既存にはない新しい方法であり，複数の企業が興味を示し，実用化研究を実施中である。また，日本生物工学会においては一連の成果を発表するとともに，「生物資源を利用した地域創成研究部会」の部会長として活発に活動している。

＜受賞の感想＞ この度は栄えある斎藤賞を賜わり身に余る光栄です。極限環境微生物の酵素を分子レベルで理解し応用につなげていく研究を評価していただき誠にありがたく存じます。これもひとえに金谷茂則名誉教授をはじめ，ご指導いただいた先生方，多くの共同研究者のおかげです。今後は微力ながら，社会，学会の発展に尽くしたいと考えております。

## 第40回 生物工学奨励賞（照井賞）

加藤 竜司（名古屋大学大学院創薬科学研究科・准教授）

「画像情報処理を用いた再生医療用製品製造工程における非破壊的品質管理技術の開発」



<略 歴> 2004年 名古屋大学大学院工学研究科博士課程修了，同年 名古屋大学医学部細胞治療学寄附講座 助手，2006年 名古屋大学大学院工学研究科助手，2012年 名古屋大学大学院創薬科学研究科 准教授，現在に至る。

<業績紹介> 受賞者は，再生医療用の細胞製造プロセスにおける細胞の生産・品質管理技術としての細胞観察の重要性に着目し，安全かつ安定な製造を実現する手法としての経験や勘に依存しない細胞画像情報のバイオインフォマティクス分野を確立し，単なる評価技術の開発にとどまらず，それに基づいた生産プロセスの効率化と安定化の研究に取り組み，先端技術との融合や培養プロセスの要素技術との連携へと広がりを見せている。また，セルプロセス計測評価研究部会幹事，生物工学若手研究者の集いの実行委員長・副会長・会長として

の活動を通して，本生物工学会の若手の育成にも尽力し，学会の活性化にも大いに貢献している。

<受賞の感想> この度は名誉ある照井賞にご選出いただきまして，誠に光栄に存じます。恩師の小林猛先生，本多裕之先生，西野徳三先生，中山亨先生をはじめ，お世話になってまいりました多くの先生方，本研究を一緒に作り上げてくれた蟹江慧先生・研究室のスタッフ・学生の皆さんに心より感謝申し上げます。この受賞を励みに，今後も生物工学の発展に資する研究を目指し精進してまいりたいと思います。

## 第26回 生物工学技術賞

宮本 浩邦<sup>1,2,3,4</sup>・児玉 浩明<sup>1,3</sup>・宮本 久<sup>1,5</sup>・  
酒井 謙二<sup>6</sup>・田代 幸寛<sup>6</sup>

(<sup>1</sup> (株)サーマス・<sup>2</sup>日環科学 (株)・<sup>3</sup>千葉大学・<sup>4</sup>理化学研究所・<sup>5</sup> (株)三六九・<sup>6</sup>九州大学)

「好熱性微生物を活用した未利用バイオマス資源からの高機能発酵製品の製造と学術的解明」



宮本 浩邦



児玉 浩明



宮本 久



酒井 謙二



田代 幸寛

<業績紹介> 受賞者は，切実な社会課題である未利用資源の有価物化に関して，生物工学的手法によりアプローチし，メカニズム解明を含めた多くの技術開発を行っている。具体的には，未利用海産物の発酵性資材の鍵となる菌種の同定，ならびにそれが産生する抗菌性物質の解明による肥料開発，さらには，免疫賦活ならびに脂質代謝改善効果に基づく飼料添加物開発など，商業的実装を実現している。また，本発酵産物の複合菌種を用いたL-乳酸の効率的生産技術の開発にもつなげ，バイオマテリアル生産への道を拓いている，これら一連の成果は，5報のJBB誌をはじめ多くの他学術誌へ投稿されており，本学会への貢献，生物工学技術の業績として申し分ない。

<受賞の感想> ベンチャー企業と大学との間で培われた20年以上にわたる産学連携研究の成果をご評価いただいたことに感謝申し上げます。尚，本賞の研究成果に至る過程では，都路グループ，ならびに京葉プラントエンジニアリング株式会社をはじめとした多くの方々の現場提供，ならびに事業推進のご協力があつたことを申し添えたく存じます。本賞に恥じぬように，精進を深め，研究活動を発展させていく所存です。

## 第14回 生物工学アジア若手賞 (Young Asian Biotechnologist Prize)

**John Chi-Wei Lan** (Associate Professor, Yuan Ze University, Taiwan)

Aerobic utilization of crude glycerol by recombinant *Escherichia coli* for simultaneous production of poly 3-hydroxybutyrate and bioethanol



< **Biography** > Dr. Chi-Wei Lan (John) received his Ph.D in the School of Chemical Engineering from University of Birmingham (UK) in 2000. His doctoral research was dedicated to develop an efficient process to recovery of C595 diacylglycerol from fermentation broth using expanded bed technique in large scale production. He was a post-doctoral researcher at Academia Sinica (Taiwan) to work on bioprocessing design of feed-enzyme production from 2000 to 2003. He was also a research fellow in Yamaguchi University (Japan) and Industrial Technology and Research Institute (ITRI, Taiwan), respectively, before he joined Yuan Ze University (YZU) in 2007. Dr. Lan currently serves as an Associate Professor at YZU and also the leader of Biorefinery and Bioprocess Engineering Laboratory

(YZU) as well as Managing Supervisor in committee board of supervisors of Taiwan Psychological Society. Dr. Lan is an ample experience researcher in respect of involving design and construction of industrial plant and very active in collaboration between academia and industrial partners. His current research focuses upon process integration for bio-based chemicals production from waste biomass/industrial feedstocks.

< **Message as a prize winner** > I am profoundly appreciative of receiving the 2017 Young Asian Biotechnologist Prize awarded by the Society for Biotechnology, Japan. This award is a great honor and I would like to express my sincerest gratitude to my nominator, all the nominees, committee of SBJ, and many supportive people who have influenced me throughout my research life. As a biotechnologist, I always believe the power of biotechnology can offer tremendous contributions on sustainable development and human civilization. With this honor, I wish to have more opportunities on collaborating with all the excellence scientists in terms of research work, brainstorming and sharing achievements.

## 第14回 生物工学アジア若手賞 (Young Asian Biotechnologist Prize)

**Tau Chuan Ling** (Professor, University of Malaya, Malaysia)

Recovery of biotechnological products using aqueous two phase systems



< **Biography** > Professor Ling Tau Chuan received his doctor's degree in Chemical Engineering from the University of Birmingham, UK in 2002. He has been serving as a Professor at the Institute of Biological Sciences, Faculty of Science, University of Malaya since 2011. Professor Ling is also the Co-Editor-in-Chief for the Current Biochemical Engineering.

He has more than 10 years of research experience in the field of downstream processing and bio-process engineering. He is interested in bioseparation especially protein recovery from enzymes, microalgae, and food. His current research mainly focuses on clean energy, green chemistry, cultivation of algae in wastewater for biodiesel production, bioprospecting microalgae for useful proteins. To date, he has published more than 150 international peer-reviewed journals and presented more than 80 conference papers.

< **Message as a prize winner** > It is a remarkable honor for me to be awarded the 2017 Young Asian Biotechnologist Prize of the Society for Biotechnology, Japan (SBJ). I thank the SBJ for the tremendous honor. I will continue to work closely with SBJ for advance development of international collaboration between Malaysia and Japan.

## 第6回 生物工程アジア若手研奨励賞 (The DaSilva Award)

**Fithriyah Sjatha** (Assistant Professor, Universitas Indonesia, Indonesia)

Production of resuscitation-promoting factor B of *Mycobacterium tuberculosis* using various expression systems and their immunogenetical study for vaccine platform



< **Background and Achievements** > Dr. Fithriyah Sjatha received her doctoral degree from Kobe University, Japan (under the supervision of Prof. Eiji Konishi) in 2014. After receiving PhD degree, she worked as lecturer and researcher in the Department of Microbiology, Faculty of Medicine, Universitas Indonesia. Continuing her study during Master and Doctoral degree, currently her research interest is dengue and tuberculosis vaccine development in both procaryotic and eucaryotic expression system. In 2014, she received Young Scientist Award from Faculty of Medicine, Universitas Indonesia and International Publication Award from Center for Research and Integrated Development of Tropical Health and Infectious Diseases-Universitas of Indonesia.

< **Message as a prize winner** > I sent my gratitude and appreciation to the Society for Biotechnology, Japan for this honor. This award is a recognition for young researcher, encourages us to do more research in biotechnology, and I personally view this award as an opportunity for weaving collaboration with Japanese scientists and institutions. I would like to thank Prof. Enoch Y. Park and Prof. Eiji Konishi who fully support and encourage me to do more research and publish more papers. Thank you very much.

## 第25回 生物工学論文賞

■松本 大亮<sup>1\*</sup>・山岸 彩奈<sup>2</sup>・齋藤 恵<sup>1\*\*</sup>・Ramachandra Rao Sathuluri<sup>2\*\*\*</sup>・  
Yaron R. Silberberg<sup>2\*\*\*\*</sup>・岩田 太<sup>3</sup>・小林 健<sup>4</sup>・中村 史<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 東京農工大学, <sup>2</sup> 産業技術総合研究所バイオメディカル研究部門, <sup>3</sup> 静岡大学, <sup>4</sup> 産業技術総合研究所集積マイクロシステム研究センター, \* 現, 東京医科歯科大学, \*\* 現, 埼玉医科大学病院, \*\*\* 現, National Institute of Health and Family Welfare, India, \*\*\*\* 現, 東京大学)

Mechanoporation of living cells for delivery of macromolecules using nanoneedle array (JBB, Vol. 122, No. 6, 748, 2016)

■Mohamed A. A. Abdelhamid<sup>1,2\*</sup>・池田 丈<sup>1</sup>・本村 圭<sup>1</sup>・田中 達也<sup>1</sup>・石田 丈典<sup>1</sup>・  
廣田 隆一<sup>1</sup>・黒田 章夫<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 広島大学, <sup>2</sup> Minia University, Egypt, \* 現, Korea University, Korea)

Application of volcanic ash particles for protein affinity purification with a minimized silica-binding tag (JBB, Vol. 122, No. 5, 633, 2016)

■菊川 寛史<sup>1\*</sup>・櫻谷 英治<sup>1,2</sup>・安藤 晃規<sup>1</sup>・奥田 知生<sup>1</sup>・清水 昌<sup>1,3</sup>・小川 順<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 京都大学, <sup>2</sup> 徳島大学, <sup>3</sup> 京都学園大学, \* 現, 岐阜大学)

Microbial production of dihomog- $\gamma$ -linolenic acid by  $\Delta 5$ -desaturase gene-disruptants of *Mortierella alpina* 1S-4 (JBB, Vol. 122, No. 1, 22, 2016)

■谷口 正之<sup>1</sup>・落合 秋人<sup>1</sup>・福田 駿<sup>1</sup>・佐藤 哲平<sup>1</sup>・斎藤 英一<sup>2</sup>・加藤 哲男<sup>3</sup>・田中 孝明<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 新潟大学, <sup>2</sup> 新潟工科大学, <sup>3</sup> 東京歯科大学)

AmyI-1-18, a cationic  $\alpha$ -helical antimicrobial octadecapeptide derived from  $\alpha$ -amylase in rice, inhibits the translation and folding processes in a protein synthesis system (JBB, Vol. 122, No. 4, 385, 2016)

■Ming Gao<sup>1,2</sup>・田代 幸寛<sup>1</sup>・Qunhui Wang<sup>2</sup>・酒井 謙二<sup>1</sup>・園元 謙二<sup>1</sup>

(<sup>1</sup> 九州大学, <sup>2</sup> University of Science and Technology Beijing, China)

High acetone-butanol-ethanol production in pH-stat co-feeding of acetate and glucose (JBB, Vol. 122, No. 2, 176, 2016)

■董 金華\*・鄭 熙陳\*\*・上田 宏

(東京工業大学, \* 現, Weifang Medical University, \*\* 現, Dana-Farber Cancer Institute)

Preparation of Quenchbodies by protein transamination reaction (JBB, Vol. 122, No. 1, 125, 2016)

■山野 範子<sup>1\*</sup>・高橋 舞<sup>1\*\*</sup>・Seyed Mohammad Ali Haghparast<sup>2\*\*\*</sup>・鬼塚 正義<sup>1</sup>・  
隈元 信貴<sup>1\*\*\*\*</sup>・Jana Frank<sup>1\*\*\*\*\*</sup>・大政 健史<sup>1,2</sup>

(<sup>1</sup> 徳島大学, <sup>2</sup> 大阪大学, \* 現, 次世代バイオ医薬品製造技術研究組合 / 大阪大学, \*\* 現, 大塚製薬株式会社, \*\*\* 現, 京都大学, \*\*\*\* 現, 沢井製薬株式会社, \*\*\*\*\* 現, 大阪大学)

Increased recombinant protein production owing to expanded opportunities for vector integration in high chromosome number Chinese hamster ovary cells (JBB, Vol. 122, No. 2, 226, 2016)

## 第6回 生物学学生優秀賞（飛翔賞）

■林 祥平（北海道大学大学院総合化学院総合化学専攻）

「多価不飽和脂肪酸合成酵素の生産性及び生産物制御機構の解明」



<授賞理由>受賞者は、ポリケチド合成酵素様の多価不飽和脂肪酸（PUFA）合成酵素における生産性制御機構の解明とその応用に関する研究を活発に展開している。複数の微生物のPUFA合成酵素を対象に、その構造中に含まれる連続した活性なアシルキャリアプロテインドメインの数がPUFA生産性の制御に重要な因子であることを見だし、酵素工学的アプローチによりPUFA生産性を向上させた。これらの研究成果は、数多くの学術論文発表や学会発表を通じて活発に公表するとともに、北日本支部札幌シンポジウム学生最優秀ポスター賞を受賞している。同受賞者は、生物工学分野における若手研究者として今後のさらなる活躍が期待される。

<受賞の感想>この度は名誉ある本賞を賜り、大変光栄に思います。日頃より指導してくださっている大利徹教授をはじめ、研究室の皆様へ感謝申し上げます。また、推薦していただきました先生方と選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。本受賞を励みに、生物工学の発展に貢献できるよう、精進してまいります。

■袴田 一晃（東京農工大学大学院工学府生命工学専攻）

「熱帯熱マラリア原虫 *Plasmodium falciparum* 由来 EXP2 の獲得と特性解析」



<授賞理由>受賞者は、熱帯熱マラリア原虫 *Plasmodium falciparum* 由来 EXP2 の獲得と特性解析において、トランスロコン中で、他のユニットを膜につなぐリンカーであり、タンパク質が通過するポア形成機能を有すると予想されるタンパク質 EXP2 を組換えタンパク質として精製し、各種 *in vitro* 解析を行い、その特性を初めて明らかにした。これらの研究成果は、数多くの学術論文発表や学会発表を通じて活発に公表するとともに、東日本支部コロキウムポスター賞など複数の賞を受賞している。同受賞者は、生物工学分野における若手研究者として今後のさらなる活躍が期待される。

<受賞の感想>熱帯熱マラリア原虫のトランスロコンの研究を評価していただき、大変感謝しております。また研究に携わっていただいた皆様に改めてここに感謝申し上げます。今後も引き続き、非常にユニークな熱帯熱マラリア原虫のタンパク質の解明を通じて、生物工学の発展に貢献してまいります。

■小崎 一功（名古屋大学大学院工学研究科生命分子工学専攻）

「ペプチドアレイを利用した細胞内機能性ペプチドの高活性化」



<授賞理由>受賞者は、光切断ペプチドアレイと細胞透過性をもつペプチドを組み合わせ、多数のペプチドを細胞内に導入し、その評価を適切に行うことで、高機能ペプチドの取得に成功し、ペプチドアレイを利用した本探索系が細胞内機能性ペプチドの活性向上に有用であることを実証している。これらの研究成果は、数多くの学術論文発表や学会発表を通じて活発に公表するとともに、生物工学若手研究者の集い 夏のセミナー 2016 優秀ポスター賞など複数の賞を受賞している。このように同受賞者は、生物工学分野における若手研究者として今後のさらなる活躍が期待される。

<受賞の感想>この度は名誉ある本賞を賜り、大変光栄に思っております。この度の受賞に際し、ご支援賜った本多先生、中部支部の先生方に厚く御礼申し上げます。莫大な多様性を誇るペプチド配列中から、目的の機能性ペプチドを同定・デザイン可能な技術の構築を目指し、社会に貢献できる成果を上げられるよう、情熱をもって研究活動に取り組んでまいります。

■中野 洋介 (大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻)

「D-アミノ酸の定量分析に資する高感度ハイスループット分析法の開発」



<授賞理由>受賞者は、従来の鏡像体選択的アミノ酸分析手法の問題点を排除した、簡便性やハイスループット性に優れ、高い感度と再現性を示す世界最高レベルのD-アミノ酸の新規な定量分析法を独自に確立するとともに、本手法を用いて食品に含まれる非常に低濃度(nmol/mLレベル)のD-アミノ酸の定量分析に成功している。これらの研究成果は、数多くの学術論文発表や学会発表を通じて活発に公表されている。また、同受賞者は食品に焦点をあて、本手法のさまざまな応用・利用に関する研究を展開している。このように同受賞者は、生物工学分野における若手研究者として今後のさらなる活躍が期待される。

<受賞の感想>この度は、非常に名誉のある本賞を賜り大変光栄に存じます。日頃より親身にご指導くださる福崎英一郎先生はじめ、研究室のメンバーに厚く御礼申し上げます。また、推薦していただいた関西支部の選考委員の先生方に心から感謝申し上げます。本受賞を糧に、生物工学ひいては社会の発展に貢献できるよう、今後もより一層努力してまいります。

■李 秋実 (崇城大学大学院工学研究科応用微生物工学専攻)

「*Aspergillus* 属糸状菌のガラクトマンナン生合成に関与するガラクトフラノース転移酵素の同定および機能解析」



<授賞理由>受賞者は、肺アスペルギルス症原因菌である *Aspergillus fumigatus* のガラクトフラノース (Gal<sub>f</sub>) とマンノースで構成される真菌型ガラクトマンナンの生合成系について精力的に研究をおこない、β1,6-Gal<sub>f</sub>転移酵素をコードする遺伝子 (*gfsE*) を真核生物で初めて突き止めるとともに、GfsEがGal<sub>f</sub>残基にUDP-Gal<sub>f</sub>を糖供与体としてGal<sub>f</sub>を転移する活性を有することを明らかにするなど、新規性の高い成果をあげている。これらの研究成果は数多くの学会発表を通じて活発に公表されている。同受賞者は、生物工学分野における若手研究者として今後のさらなる活躍が期待される。

<受賞の感想>この度は生物工学学生優秀賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に感じております。推薦していただいた先生方、ご指導くださった先生方、ともに研究に携わった皆様方に心より感謝しております。今後は本賞に恥じぬよう、これまで以上に全力で研究に精進し、生物工学の発展に心から貢献致したいと考えております。